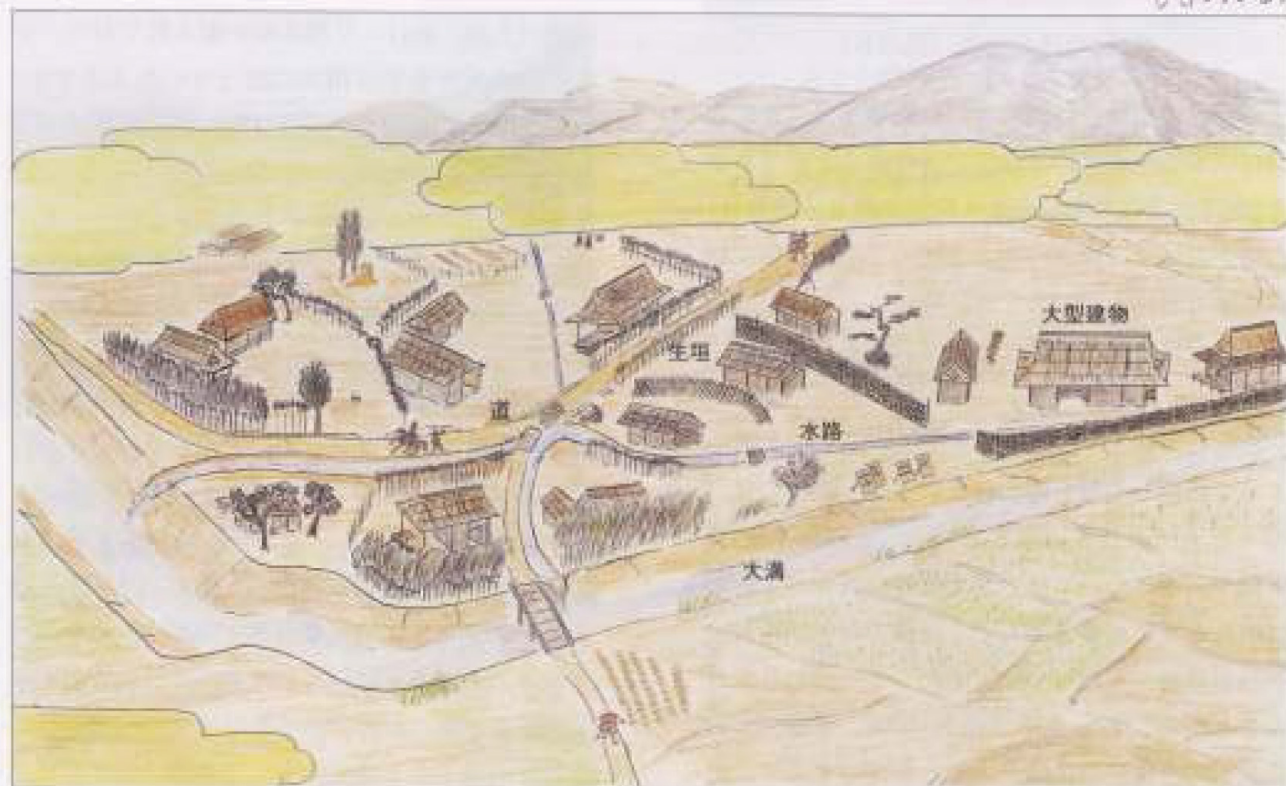


阿岐のまほろば Vol. 39



鎌倉時代の高屋保にタイムトラベル

溝口4号遺跡（高屋町溝口）



溝口4号遺跡想像復元図

溝口4号遺跡は、白鳥山の北東麓、溝口川沿いに開けた緩やかな扇状地の谷頭付近につくられた弥生時代と中世の集落遺跡です。

東広島県自動車道の工事に伴って、平成19・20年度の2カ年にわたって約4,500㎡の範囲を発掘調査しました。調査によって、弥生時代中期の環濠集落と鎌倉時代の大きな溝に囲まれた集落、室町時代の屋敷跡の存在が明らかになりました。

弥生時代の環濠集落は、高屋地区で初めて確認されたもので、調査範囲内では、幅1～3mの濠が長さ約30mにわたって見つかりました。内部の状況は限られた範囲ですので、明確ではありません。

んが、濠に沿って20～30m幅の何もない広場のような空白地帯があり、その内側に掘立柱建物群。さらに内側に竪穴住居群があるという、同心円状の構造になっていたようです。調査では、掘立柱建物跡4棟、竪穴住居跡2軒などが見つかり、高屋地区初の環濠集落の実態を知る上で貴重な資料となりました。

上記のような弥生時代の溝口4号遺跡も重要ですが、今号では溝口4号遺跡の中世の様子、特に鎌倉時代後半の様子を中心にお知らせしたいと思います。



溝口4号遺跡全景（北から）

中世の遺構は、南側の小高い台地部分とその北側に広がる平用地の2地区に分けることができます。地区によって中心となる時代が異なっており、台地上の地区は鎌倉時代、北側の平用地は南北朝から室町時代を中心とした時代のものでした。ここでは台地地区の遺構について詳しくみていきます。

台地は、幅4～10m、深さ1～2.5mもの大溝によって西側と北側を囲まれています。調査で見つかった大溝の長さは南北約90m、東西約30mで、東側や南側については、調査範囲の外なので詳細は明らかではありませんが、南側には古い灌漑水路が流れ、東側についてもかつては深い谷だったことから、おおよそ、南北100m、東西50mの長方形の台地状の区画だったと推測できます。出土遺物から、鎌倉時代の13世紀後半から14世紀前半にかけて営まれた集落だったと考えられます。



水路跡と道（小さな多数の穴は生垣跡）

内部は、台地の南西寄りに30m×20mほどの区画をつくり、中央西寄りに100㎡ほどの規模の大型建物を配していました。調査区内で最も規模の大きな建物跡であり、遺跡の中でも中心的な建物だったことがうかがわれます。

大型建物跡の東側には幅2mほどの道が南北に通っており、その両側にはいくつもの小規模な屋敷が配されていました。

発掘調査では、井戸は見つかりませんでしたが、西側の大溝に並行して用水路が掘られており、そこを流れる水を生活用水に使っていたようです。水路は台地の北側で二股に分かれ、それぞれ西と北に流れた後、大溝に流れ込むことから、灌漑用水ではなかったことがわかります。水路の所々に大きな石が沈めてありましたが、これは水の流れをせき止めて、くみ上げたり、洗濯をしたりする場所として利用されていたと思われます。

道沿いの家々は、小さな溝で区画され、道路と敷地の境界に生垣が植えられている家もありました。「一遍上人絵伝」や「観音聖人絵伝」などの鎌倉時代の絵巻物には、家々の周囲にある生垣が数多く描かれており、溝口4号遺跡の様子を彷彿とさせます。

では、このような溝口4号遺跡は、どのような性格の集落だったのでしょうか



鎌倉時代の町並み（一遍上人絵伝より）



旧石器時代	縄文時代	古墳時代	鎌倉時代	室町時代	安土・桃山時代	江戸時代	明治時代	大正時代	昭和時代	平成時代	令和時代
			中世	近世	近・現代						



最大の特徴である大溝は、鎌倉時代のものとしては規模が極めて大きいこと、方形に集落を取り囲むことなどから、防衛の機能があったことがうかがわれます。一方で、集落内には、竹原市の田方里と高屋を結ぶ街道だったと思われる道が縦断しており、交通の要衝ともなっています。このような大型の建物を中心として、交通の要衝を抑え、高い防御性を備えた集落は、通常、領主クラスの



遺跡北側の大溝断面

館などの拠点集落に見られるものです。

鎌倉時代の武士の館は堀と土塁に囲まれた方形の区画で、「土居」「堀之内」などと呼ばれていたと考えられています。これらの遺跡では、堀の内側には領主の屋敷がありますが、家来や使用人の屋敷などは、堀の外側にあったと考えられています。一方、溝口4号遺跡の場合は、大きな屋敷はありますが、堀などで区画されているわけではなく、従属すると思われる小規模な屋敷とともに一つの大きな区画の中で溝に囲まれているのです。いったい、どのように考えればいいのでしょうか。

鎌倉時代の絵巻物などを紐解くと、地頭クラスの武士の屋敷がいくつか描かれているのを目にすることができます。中には堀に囲まれている情景が描かれていることもあります。多くは堀や生垣、柴垣など、簡単な施設で周囲と区画されているだけです。中には小さな溝が、外部との境界のように描かれているものもあるのです。鎌倉武士のふるさと、関東地方では、堀に囲まれた武士の屋敷がつくられるようになるのは、南北朝時代以降だという研究もあります。まだまだ、鎌倉時代



武士の屋敷（一遍上人絵伝より）

の武士や地方領主の生活についてはわからないことが多くあるのです。

さて、絵巻物に描かれた地方領主の屋敷を彷彿とさせる溝口4号遺跡ですが、この遺跡について書かれたものは何もないので、遺跡を取り巻く周囲の歴史的状況から推測してみましょう。

遺跡がある高屋町は平安時代末期から室町時代にかけて「高屋保」と呼ばれる地域でした。「保」とは、中央官庁の所領に多くつけられた地域単位の呼称です。荘・郷・保などと呼ばれ、荘園制下の土地制度の一つでした。高屋保の場合、大炊寮という朝廷の食糧を管理する役所の領地でした。大炊寮の長官は中原氏という貴族が世襲していて、高屋保には代官である雑掌を派遣して支配していました。鎌倉時代に入ると、高屋保には鎌倉御家人である平賀氏が地頭として移住してきます。平賀氏は、高屋堀の御園子城を本拠とし、強力な武力を背景に高屋東や隣接する入野郷などに一族を配していくようになります。

南北朝時代の初期、大炊寮の雑掌は平賀氏を幕府に訴え勝訴しています。詳細は明らかではありませんが、根深い対立があったものと思われます。

平賀氏の拠点が高屋保の北東側だったのに対し、高屋保の南西側で大きな勢力を持っていたのは白鳥神社です。溝口4号遺跡を見下ろす急峻な山頂に鎮座する白鳥神社は日本武尊の伝説もある古い神社で、社殿の下古墳からは三角縁神

甕鏡などが見つかっています。神社の麓の郷や溝口には、十薬寺や神宮寺、善仏寺、大福寺など、神社に関連した寺院の跡や「土器屋」「壱屋敷」「壱免」「壱屋」などの地名が数多く残されており、かつてこの地域がにぎやかに栄えていたことを偲ばせます。また、高屋町の南西端に当たる宮領は、白鳥神社の領地だったことからこの名が付いたとされます。そのほかにも、「白鳥神社祭礼事書」によれば、中島の石打八幡神社、稲本の西八幡神社、杵原の杉森八幡神社、大富の時成八幡神社は白鳥神社の鳥居原御幸神事に参加していたことが記されており、ほぼ高屋保の西側地域が白鳥神社の影響下にあったことがうかがえるのです。

では何故、白鳥神社はそうのように大きな勢力を維持できたのでしょうか。誰が白鳥神社に領地を与えたのでしょうか。

先述の「白鳥神社祭礼事書」には、平賀氏が、鳥居原への御幸をやめて、平賀氏の氏神である高屋東の福岡八幡神社に変更させようとして神闘を受けたことが記されています。これをそのまま史実として受け取るわけにはいきませんが、戦国時代になっても、平賀氏と白鳥神社がそれほど密接な関係になかったということの反映であることが

推測できるのです。

平賀氏でないとすれば、最も可能性が高いのは中原氏です。そもそも白鳥神社の所在する郷地区は、古代の高屋郷の中心だったと推測される場所です。古代以来の高屋の中心に鎮座する神社だからこそ領主も崇敬していたと考えられるのです。また、溝口4号遺跡の中を通る道路遺構は、南の峠道を超えると現在の2号線（田万里）や竹原の港まで最短で行ける道なのです。

大炊寮による支配は、15世紀の半ばで終わることが古文書から明らかにされています。実は、溝口4号遺跡で人々の生活の痕跡が見えなくなるのも15世紀半ばなのです。また、江戸時代末期の地誌「芸藩通志」所収の溝口村絵図によれば、溝口4号遺跡のある位置に「溝口」の地名が書かれています。これは当時、遺跡のあった場所が字「溝口」であり、その地名が村の名前になったことを示しています。つまり、溝口4号遺跡のあった場所が溝口村の中心であったということができるのです。「溝口」の「溝」は、遺跡の大溝を指していると思われます。前に領主の屋敷を「堀之内」と呼ぶ場合があると書きましたが、「溝口」はあるいは、「みぞ(の)うち」が訛ったものかもしれません。いずれにせよ、溝口4号遺跡が、溝口地区の中心的施設であったことは疑いないでしょう。

以上のことから、溝口4号遺跡は、高屋保の荘園領主であった大炊寮の中原氏の支配拠点として最も相応しい遺跡なのです。そして、不明な点の多い荘園領主の地域支配の実像を知る上で真に貴重な遺跡であるといえるのです。（文・絵 吉野）



1.溝口4号遺跡 2.白鳥神社(白鳥古墳) 3.石打八幡神社 4.時成八幡神社
5.西八幡神社 6.杉森八幡神社 7.御園生城跡 8.平賀氏の墓
9.白山城跡 10.頭崎城跡(7~10.東史跡平賀氏の遺跡) 11.福岡八幡神社
遺跡位置図(1:120,000) ※線は高屋保のおおよその範囲

東広島市教育文化振興事業団 文化財センター監

阿岐のまほろば Vol. 39

発行日 2009(平成21)年3月13日

発行 財団法人東広島市教育文化振興事業団/文化財センター

編集 東広島市西条町馬木541-1

TEL 082-425-3880 〒739-0033

<http://akinamahoroba.or.jp>

印刷 大東印刷株式会社

東広島市西条下見五丁目8-17

